

農業振興ワーキンググループ

第3回ワークショップ



かわまちづくりと農業の融合を目指して

令和5年1月17日（火）、大郷町役場庁舎において、3回目の「大郷町かわまちづくり農業振興ワークショップ」が開催され、37名が参加しました。参加者は3班に分かれ意見交換を行い、検討を進めている農業振興拠点施設に欲しい機能や自分たちのやりたいことに加え、「道の駅おおさと」との連携やすみ分け、ターゲットとする利用者層などについてたくさんのご意見・ご要望が出され、最後に東北学院大学の柳井教授より講評をいただきました。

今後、事務局で皆さんのアイデアを踏まえた計画づくりを進めていきます。また、農業振興ワーキンググループは今後も先進事例の勉強会など大郷の農業振興に向けた様々な取り組みを進めていきます。

【主なご意見】

A 班

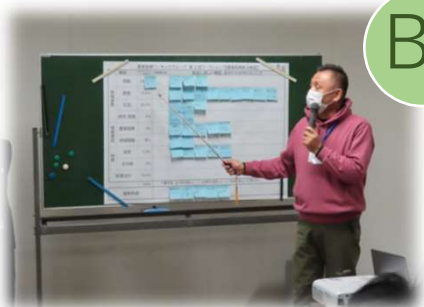


- ◇整備を優先する機能
「飲食」「休憩」
「物販」は道の駅おおさと
- ◇自分たちのやりたいこと
・地域特産を使った商品開発
- ◇ターゲットとする利用者層
・家族(子供づれ)、スポーツ利用者
→大郷のイメージづくりが必要！
都会で出来ない(農業)体験



現在、進められている河川改修がもたらす高水敷の冠水頻度の低減効果について事務局から説明

B 班



- ◇整備を優先する機能
「飲食」
「物販」は道の駅おおさと
- ◇自分たちのやりたいこと
・鹿、イノシシなどの解体・ジビエ料理
・お米、もち、豆を活用した農業振興
・ポン菓子(道の駅の秋祭りで好評！)
- ◇ターゲットとする利用者層
・ファミリー層→「体験」を提供する
(羊の毛刈り、餅つきなど)



かわまちづくり協議会の伊藤会長も、各テーブルで進む議論を見守ります

C 班



- ◇整備を優先する機能
「交流」「研究開発」「農業振興」「管理」
- ◇自分たちのやりたいこと
・日本一のキッチンカーエリア
・農家同士の技術交流、情報交換
- ◇ターゲットとする利用者層
・ファミリー層、近隣住民
→気軽に集まれる場所を作りたい



柳井教授より今後、女性の意見を取り入れていく必要があると助言をいただきました。

かわまちづくり：「かわ」と「まち」の魅力を活かし、大郷町の活性化を目指す取り組みです